

ORCAベンダー情報交換会(2012 in東京)

日時:2012年2月24日 14:00~18:00

場所:情報技術開発株式会社 本社 大会議室

主催:情報技術開発株式会社

協賛:ソフトバンクテレコム株式会社
ラジエンスウエア株式会社



主催者あいさつ

南 耕

(情報技術開発株式会社 ソリューション事業部 副部長)



協賛者あいさつ

古屋 初男

(ソフトバンクテレコム株式会社 ヘルスケアプロジェクト推進室 室長)

第一部 講演会



講演1:「救急医療現場に必要なネットワーク」

荻原 雅弘

(山梨大学附属病院 脳神経外科医)



講演2:「診療現場で求められるITツール」

板橋 明

(くぼじまクリニック 副院長)



講演3:「ORCAが果たした役割と現場の声」

永島 道夫

(メディカルドメイン株式会社 代表取締役)

第二部 情報交換会（パネルセッション形式）

コーディネーター 中嶋 吉男（ラジエンスウェア株式会社 代表取締役）
パネラー 荻原 雅弘（山梨大学附属病院 脳神経外科医）
板橋 明（くぼじまクリニック 副院長）
永島 道夫（メディカルドメイン株式会社 代表取締役）
南 耕（情報技術開発株式会社 ソリューション事業部 副部長）
古屋 初男（ソフトバンクテレコム株式会社 ヘルスケアプロジェクト推進室 室長）

ORCA推進の課題と今後



パネルセッションのコーディネーターを担当します中嶋でございます。

先ず最初に、私から情報提供と課題の提言をさせていただきます。

少々耳の痛い内容もあるかと思いますが、パネラーの先生方、及び、会場の皆さま方との交流により、将来に向かって、明るい展望が開ければ幸いです。

我々を取り巻く外部環境



1、東日本大震災で活躍した宮城県石巻赤十字病院の事例について

2、厚労省が進める、地域医療再生基金について

3、在宅医療と地域連携の今後について

- 災害医療は“総力戦”。特定の専門家だけではうまくいかない。
- 再生基金に(2,000億円)予算化したが、実用化はこれから。
- 病院のベットを減らし、在宅医療に向けて大きく動き出した。

ORCA陣営の現状と課題



- 1、通常の企業は
- 2、ORCA陣営の現状
- 3、ORCA陣営の経緯と今後
- 4、ORCA陣営の課題
- 5、ユーザの心理

- PDCAサイクルで問題をあぶりだし、迅速に対応する。
- 「ORCAならできる」の実現で ユーザに感動と安心を与える。
- 次のステップに向けて、やるべきことが沢山ある。

課題への対策案



1、定期的な情報交換会について

2、ORCA関係者、ベンダーの役割分担について

3、ORCAと連動するシステムの開発や販売に関する相談窓口について

- 困っていることや解決のノウハウを共有する。
- 各ベンダーが持っているリソースをお互いに活用する。
- ムダな競争を避け、ユーザ側に立ったシステムを提供する。

パネルセッション



1、ORCAベンダーが200社あるなら、まとめれば大きな力になる。

2、年配の先生でも簡単に使えるシステムを提供してほしい。

3、モバイル端末も視野に入れてシステム開発をされると良い。

4、今回の情報交換会が糸口となり発展されることを願っている。

5、ソフト開発したものを販売展開できる仕組みがほしい。

6、得意な部分で協力関係ができると実績が上がるのでは。

参加者からも貴重な情報提供がなされ、

90分間、熱気ある情報交換ができました。

第三部 ORCA連動システムの展示＋懇親会



1、ORCAと連動するシステムの展示が7社

「電子カルテ」「画像ファイリング」「再来受付」「予約システム」「検査データ閲覧」「レセプト点検ソフト」

2、それぞれの開発会社との情報交換

3、参加者全員で懇親会

講演された先生方を中心に和やかなうちに懇親が深められました。

- 同じような問題を抱えて、あれこれ対応されていることが解りました。
- 「困ったときは支え合う」という兆しが見えてきました。
- 参加者のほとんどの方が「意義ある交流だった」と評価をされました。